

## レッスン3

### A. お祈りの暗唱と暗記

クラスを始めるにあたって、覚えているお祈りを唱え、あらかじめ選んでおいた2、3人の子にも同じくお祈りしてもらいます。その後、レッスン1で学び始めたお祈りについて復習する時間を取ります。

### B. 歌

次に、レッスン1と2で習った二つの歌を子どもたちが歌ってから、下の歌を教えます。これは今回のレッスンのテーマ、愛についての歌です。

「愛、愛、愛」

(『ブック3 子どもクラスの歌』CD, 4 番)

愛、愛、愛、愛、人を愛そう 愛、愛、愛、愛、広がる世界  
主は創造を愛し、人を創られた 愛、愛、愛せよ、神と人

愛、愛、愛せよ、神と人

愛、愛、愛、愛、人を愛そう 愛、愛、愛、愛、広がる世界  
主は創造を愛し、人を創られた 愛、愛、愛せよ、神と人

愛、愛、愛、愛、人を愛そう 愛、愛、愛、愛、広がる世界  
主は創造を愛し、人を創られた 愛、愛、愛せよ、神と人

愛、愛、愛せよ、神と人

### C. 引用句の暗記

暗記する引用句を示すとき、このレッスンのテーマに関して生徒たちと次のような考えを分かち合うと良いでしょう。

神さまの愛は、太陽の光線のようにすべての人の上に輝いています。太陽の光線は、乾いた砂漠にも、緑が生い茂る庭にも同じように降りそそぎます。その温もりを通して、豊かな土地に植えられた種は成長し、すばらしい果物が実ります。ですから、私たちは、私たちの清らかな心の土に神様の愛の種を植えなければなりません。すると、その種は、神様の優しいお世話の温かさのもとに成長し、花を咲かせます。そして私たちの愛は広まり、全ての人に、たとえ私たちに対してときどき不親切な人にも、愛を示します。全ての人を愛することができるように、バハオラのこの言葉を暗記しましょう。

おお、友よ！ 汝の心の花園に愛のバラのみを植えよ。 101

この引用文で、説明を要する言葉は「のみ」という言葉だけでしょう。これは「それだけ」という意味です。

<のみ>

1. ディネオ君は太陽や花の歌を歌うのは好きで、他のことについての歌は歌いません。ディネオ君は太陽と花の歌のみを歌います。
2. タ・ジェン君は川遊びに行きたいのですが、お手伝いを終わっていません。父さんはそれを終わるまで外出してはいけないと言ったので、タ・ジェン君は、残念ながら腹を立ててしまいました。すると、おばあちゃんが言いました、「お父さんの言うことをきかなかつたら、川遊びのみでなく、他のことも全部できなくなってしまうんだよ」。

#### D. お話

暗記の時間が終わったら、以下のストーリーを聞かせましょう。

アブドル・バハが牢獄都市アツカに住んでいらっしやったころ、アブドル・バハにとっても失礼な態度をとる男がいました。彼は、アブドル・バハは悪い人である、バハイたちがどんなにひどく扱われようと神さまは気にされない、とっていました。彼は、バハイたちを憎むことで神さまへの愛を示していると本気で信じていて、アブドル・バハを心から憎みました。その憎しみは彼の中でどんどん大きくなっていて、時には壊れた水がめから水がこぼれ出すように、行動で現れました。人々がお祈りにやって来たモスクの中で、この男は大声をあげ、アブドル・バハについてひどいことを言いました。通りでアブドル・バハと出会うと、その顔を見ないようにするため着ている服で顔をおおいました。

ところで、この男はとても貧しかったので、食べるものや着るものも十分持っていませんでした。さて、アブドル・バハはこの男に対してどうされたと思いますか。アブドル・バハは彼に親切にし、食べ物や着る物をあげ、ちゃんと暮らしていけるようお世話されました。たとえば、この男が重い病気になったとき、アブドル・バハは彼のためにお医者さんを頼み、食べ物や薬の代金を払い、お金も渡されました。男はアブドル・バハからの贈り物を受け取りながら、ありがとうも言いませんでした。実は、お医者さんが脈を取るときもこの男は片方の手をお医者さんに出しながら、もう片方の手で着物の端をつかんで顔を隠し、アブドル・バハの顔を見ないようにするほどでした。このような状態が長年続きました。こうしたある日、ついに男の心が変わったのです。男はアブドル・バハの家に来て、滝のように涙を流しながら、その足元にひざまずいて嘆願しました。「閣下、私を許してください。24年もの間、私はあなた様にひどいことをしてきました。その24年間、あなた様は私にただただ親切にしてくださいました。いま、私は自分が間違っていたと気付きました。どうか私を許してください」と。このように、アブドル・バハの大きな愛は憎しみを打ち負かしたのです。

#### E. ゲーム「橋」

次の活動のために、ベンチ、または板、レンガ、タイルなどで遊び場に一本の線を作り、それを「橋」と呼びます。子どもたちを二つのグループに分けて、互いに一方の端に並び、同時にその橋を渡ります。どちらのチームも、一人も橋から落ちないで向かい側の端にたどりつかなければなりません。子どもたちは互いに助け合って、一人ずつ順に位置をいれ替わるようにしなければ渡れないことを理解するようになるでしょう。

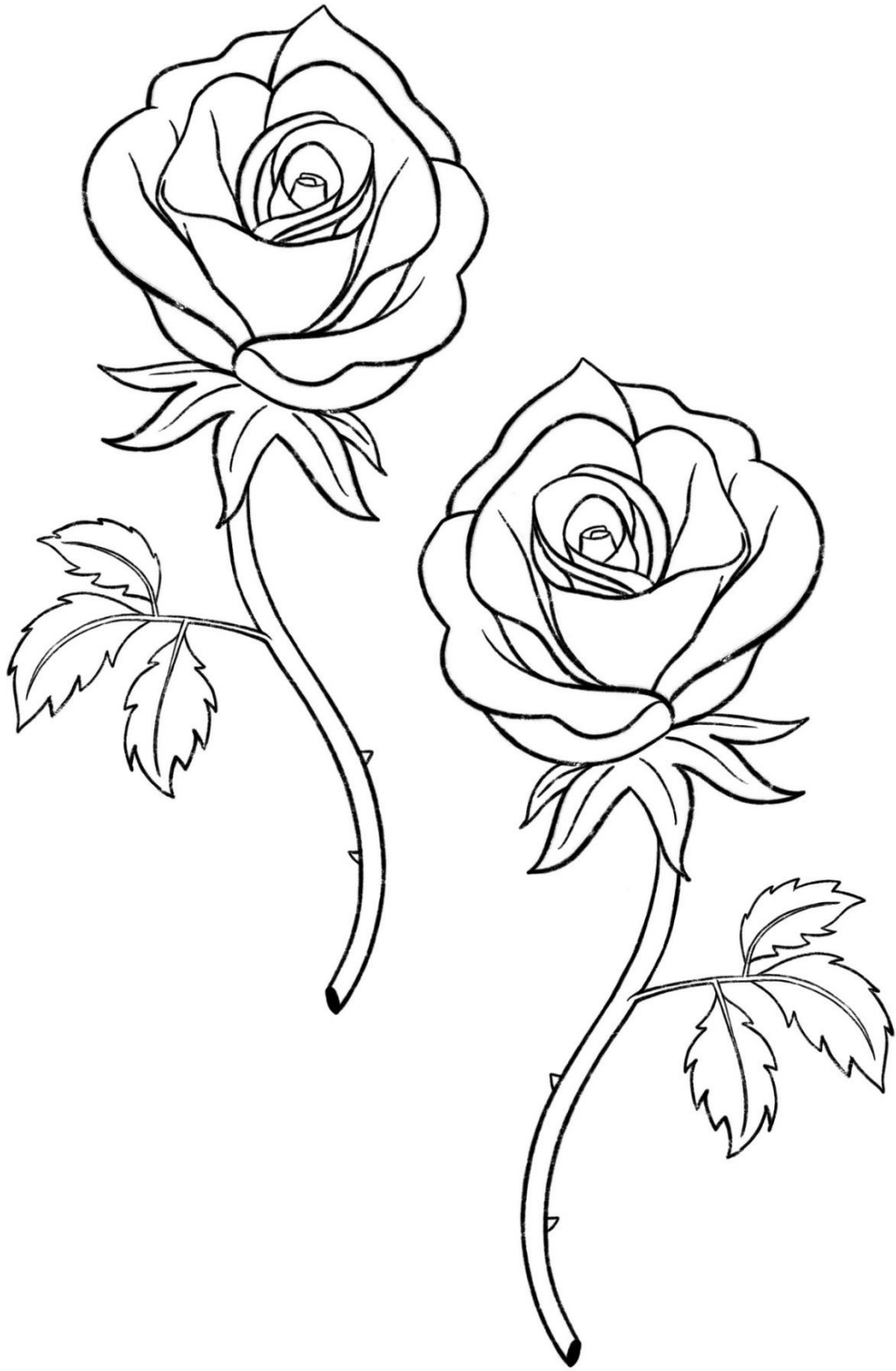
子どもたちを助けるために、彼らをそれぞれのスタート地点に誘導し、橋を進む手伝いをします。全員一度に橋の上に乗るのではなく、まず二人で練習をさせて、そして、3、4名ができるようにします。このような練習を数回したら、橋の上の乗る子の数を増やし、全員参加できるまで続けます。

## F. ぬり絵 3

ゲームの次は、図3のコピーを一人ずつに配ってぬり絵をします。この絵とこのレッスンのテーマにどんな関係があるかを簡単に説明することを忘れないでください。

## G. 終わりの祈り

クラスを終わるため、生徒たちは静かに座り、2、3人の生徒が彼らの暗記したお祈りか聖句を唱えるよう促します。それから、子どもたちの一人、またはあなたが終わりのお祈りを唱えます。



おお、友よ！<sup>なんじ</sup> 汝の心<sup>はなぞの</sup>の花園に愛<sup>う</sup>のバラのみを植えよ。

